

金子校区まちづくり懇談会 開催結果報告書

開催日時 平成30年8月29日(水) 19:00~21:03
場所 地域交流センター 2F 多目的ホール
司会・進行 東庄内自治会(曾我)
参加者数 男 58人 女 14人 合計 72人



1. 市の重点事業に関する質問

質疑応答(要約)

Q 駅前の別子荘でFMラジオを聞いていたところが、雑音が多く聞き取りにくかったが電波状態はどうか?

A 電波の強さは、通常のFM放送局と比較してコミュニティFM放送局は10分の一程度の出力であり、アンテナは新居浜市役所の屋上に設置している。向きや建物の影響もあるので色々お試しいただきたい。

Q 滝の宮公園の動物舎の排水が、浄化槽等を通さずに直接池に流れ込んでいる感じがあるが、改善していただきたい。植物や動物の専門家を計画委員又はオブザーバー的に入れていただきたい。

A 担当課に調べさせて回答させます。

Q 災害発生後、停電が発生した場合、新居浜市は非常発電でFMラジオは流せるか?市役所も自家発電ができるのか。その他市の施設で自家発電ができる場所はどこか。時間はどれぐらいか。

A あかがねミュージアムは自家発電装置があるので一定時間は大丈夫。燃料さえ補給できれば発電可能。市役所も発電できる。他には防災拠点施設。燃料が続く限り発電可能。

2. 連合自治会共通の市政課題

質疑応答（要約）

Q①緊急避難場所、避難所に関して

市からどの地区はどこに避難するか個別具体的な避難先の指示を行うのか。避難指示の方法は。実効ある伝達方法をどう考えているか。

勧告が出た場合、金子の緊急避難場所開放の体制・手順・時間的タイミングはどうか。自動開放キーボックスの設置はどうか。

南海トラフ巨大地震の時、新居浜市は最大45%の人が避難すると県のデータがある。金子の人口に対し避難場所収容人数が全く不足するがどうか。

避難所の備蓄品およびトイレは収容人数に対し全く不足しているが今後の計画はどうか。

A① 市は個別具体的な避難先の指示は行いません。あらかじめご自身で最寄りの避難場所、安全な避難経路、家族との連絡方法、備蓄などについて確認し、自ら備えてください。

避難情報の伝達方法は、防災行政無線のほか、テレビ、インターネット（ホームページ、メールマガジン、ツイッター、フェイスブック）、防災ラジオなど、様々な手段を使って適切にお知らせいたしますが、市民の皆様自らも、災害に関する情報について、積極的に情報を入手し、避難行動につなげていただくようお願いします。

避難情報の発令と同時に開設に当たり、避難情報の発令から概ね30分程度を目途に設置するが、最小限度で賄えると判断した場合は公民館を開設することとしています。

自動開錠するキーボックスは、津波浸水想定区域を対象に、職員が不在の場合でも津波避難ビル（校舎）に避難ができるよう、平成26年度にキーボックスを設置したが、津波浸水想定区域以外の区域の建物には、自動開錠するキーボックスは設置しておりません。

愛媛県地震被害想定調査では、新居浜市内の全避難者数は、54,753人（121,735人（22国調夜間人口））で約45%、このうち、避難所に避難される人数は、34,523人で、28.3%と想定しており、金子校区の指定避難所の収容人数は、4,742人で、これは校区人口の約41%です。著しく不足するとは想定しておりません。

災害発生第1日目は、指定避難所備蓄品の応急供給を行うとともに、応援協定を結んでおります市内の協定業者から弁当等を調達します。2日目以降は、米飯の炊き出しや、弁当等を支給することとしています。

ただし、食料の確保については、災害に備えて家庭や自主防災組織等で備え、いざという時に持ち出しができるよう準備をしていただき、持ち出しできない方の分を市の備蓄で賄う計画です。

トイレは、金子校区で現在、南中学校に1,100個の携帯トイレを備蓄しており、平成32年度には金子小学校に1,100個を追加予定です。

再質問

避難所は順次開放となっているが、避難所の指示が必要でないか確認したい。

再回答

順次となっているが、大規模災害時には同時に開設する。

Q②情報伝達

自治会の放送が大雨で聞こえないため、避難指示が伝達されず、多くの犠牲者が出た例があったが、現在のスピーカー方式による情報伝達の不備をどうとらえているか。

FM ラジオの普及はどういった計画となっているか。どういった情報が流されるのか。

A② 大雨、暴風の際は、聞こえない、あるいは内容が聞き取れないなどの弱点がある。放送内容を市ホームページでも同時にお知らせしているが、緊急時は同時にスマートフォンや携帯電話のエリアメール、ツイッター、フェイスブック、防災ラジオFM放送、また必要に応じて広報車など、複数の手段を使い積極的にお知らせする。

避難される際には、隣近所等への声掛け、自主防災組織や消防団による避難の呼びかけといった「共助」についてご協力をお願いしたい。

普及を促進するため、購入しやすいよう市が6千円補助し、3千円で販売している。現在、市内では、土砂災害警戒区域世帯への無償貸与等を含めて約800台をご利用いただいている。引き続き普及に向けて周知に努めていく。

通常の放送では、通常番組に加え、「防災・防犯・交通インフォメーション」という5分ほどの番組を週5日、一日3回放送しているが、緊急時にはこのFM放送に割り込み放送を行うこととしており、この際には、防災ラジオが自動起動する仕組みとなっている。

割り込み放送内容は、避難情報や気象情報など、全市に向けた、緊急を要する情報を予定している。

Q③資機材保有、生活用品備蓄

a. 保存水、保存食等災害時必要な生活用品の備蓄は、金子校区のアンケートでは自治会での備蓄は1%にも満たない。また個人の備蓄も備蓄無し又は1日未満あわせて30~40%もあり心もとない。自治会への備蓄補助などどう考えているか。

b. 発電機など資機材備蓄品について、制度として補助金支出制度を設けるべきと思うがどうか。

A③ 地域防災計画では、避難所に収容された方などを対象に、市において食料を供給することとしているが、日頃から各家庭でも飲料水・食料を備蓄し、被災時には持参をお願いします。

熊本地震において被災前は備蓄意識が低かったことから、今年のまちづくり校区懇談会の共通テーマを「防災」とし、市と自治会とで備蓄品や資機材の棚卸をすることにより、備えが十分でないという危機感を持っていただき、そこからスタートだと考える。

市も自助・家庭での備蓄を呼び掛けるので、各自治会でも啓発をお願いする。

資機材等の整備に関する補助は、金子校区について平成27年度に100万円を助成している。この補助金を活用し、校区の判断で必要な資機材の整備を行っている。

今後は、引き続き、宝くじ助成金を活用して各校区自治会単位での資機材の充実に取り組んでいきたいと考えている。

トイレ凝固剤や毛布は、携帯トイレと毛布を小・中学校に備蓄品として整備を進め、発電機は避難所となる小・中学校、高校、高専へ備えている。

Q④家屋・塀の倒壊防止

a. 新耐震基準でない家屋の補強はほとんどなされていない。耐震化率の推移を教えてください。今後の計画・期限・目標はどうか。

A④a 平成25年度のデータでは、木造戸建て58%、共同住宅等96.3%、合計70.4%で全国平均82%と比較して少し低い状況である。平成28年度の申込実績は診断88件、設計15件、工事8件、工事監理8件、平成29年度の申込実績は診断38件、設計29件、工事23件、工事監理23件となっており、平成30年度は診断100件、設計25件、工事25件、工事監理25件の申し込み枠を設けているので、建築住宅課までお申し出ください。

再質問

今後とも目に見える形で進めていただきたい。

Q④家屋・塀の倒壊防止

b. 市内の老朽空き家・危険ブロック塀について

空き家対策の取り組み状況と今後の方向性はどうか。

校区内の特定空き家は何軒あるか。

民間のブロック塀対策は具体的にどう進めるのか。

A④b 平成23年度から空き家対策室（班）を設置、3年が経過し、実情を把握するのが難しい中で、市内に1900軒ほどを把握している。うち特定空き家になりそうなものが約500軒あり、金子校区にはCランク2軒、Dランクは3軒ある。年間180件程度の問い合わせがあるが、所有者の調査が大きな作業であり、3人で毎日取り組んでいる状況。昨年、特定空き家に指定された5件のうち4件が除却になった。

民間ブロック塀に対する補助金は、道路に面したブロック塀には補助金を出す。高さが1m以上のブロック塀撤去に対して、通学路9000円/m、その他は5000円/m、いずれも上限は10万円です。新しい古いに関係なく補助をする。9月議会に上程し、議決されれば10月の市政だより等で周知する。

Q④ブロック塀の補足質問

通学路のブロック塀の危険度調査は実施したと聞いたが、一般のブロック塀で公道に面しているところは調査をして当家に処理させるべきと思うがどうか。

A④ 通学路は年々変更があるので、各学校に調査依頼をしており、結果が出揃ってから専門家に依頼して対処する予定。民間のものは所有者責任で管理をしていただく必要があるが、危ないところがあれば建築指導課まで連絡いただければ見に行きます。調査をして撤去することになれば経費が掛かるので、建設業協同組合の業者を紹介する手はずを整えている。

Q⑤自主防災組織

a. 自主防災組織において、自治会長が中心となって災害時活動に当たるようになっているが、要介護者と病人を抱えており、自分の家族のことで手一杯で、町内の陣頭指揮などができるのか心配である。災害時代わりの人がいればいいが適任者はいない。

要支援者には2人ずつ支援者をつけることになっているが、どうやって支援者を充てていくのか、災害時本当に支援できるのかと思われる。他の自治会でこれらの問題を克服して、災害時自主防災組織が有効に機能した例があれば紹介して欲しい。

A⑤ 自主防災組織の活動では各自治会ご苦労されていると察します。

地域の中でやれる方がやれる範囲でやっていただくことしかないと考える。市から適切なお答えは難しいが、活動内容の充実、方法については市も一緒に考えていくが、個々の問題はそれぞれの地域で話し合いを持っていただいて解決していただくしかないと考えている。

このことについての事例ではないが、愛媛県が作成した自主防災組織活動マニュアルでは、県内で活発に活動している自主防災組織として、松山市の「高浜地区自主防災組織連合会」の活動事例が紹介されている。土砂崩れによる家屋被害等の被災にもかかわらず、犠牲者はゼロであったことがNHKで報道されていた。普段からの自主防災組織の活動を通じた、地域住民の高い防災意識がこうした結果を生んだものと言われている。

Q⑤自主防災組織（提言）

b. 要支援者・高齢者など個人情報の把握について

画面を見ていただいて、9組までである自治会の全体地図が表示です。独居老人宅に赤丸をつけた図面を作って各組長及び役員に配布し、いざというときにチェックして回るというのをやろうとしていることを紹介します。

A⑤ 要支援者の情報については、個人情報のためお渡しすることは困難であり、情報が活用できていない。東庄内自治会のような取り組みは自治会で集めた情報であり、自治会内で情報を共有できるすばらしい先進的な活動と考える。様々な活動を通して他の自治会にも広げていければと思う。

Q⑥校区内水害対策

b. 久保田雨水幹線の計画と進捗状況について

16年災害後も、平和通りの冠水は一向に改善できていない。基本的には東川に沿って新設する久保田雨水幹線設置に取り組むということだったが、基本計画の現状と進捗状況、今後の計画はどうなっているか。

c. 橋脚の撤去の進捗状況について

16年災害時、尻無川、東川の橋脚が大きな被害の要因となった。一部橋脚の無いタイプの橋が建設され改善されたが、東川の未着手橋の今後の対応はどうか。

A⑥b

久保田雨水幹線は、河川管理者である愛媛県と、東川への放流に関し協議を行っているが、吐口を計画している付近の東川の断面が狭小で、現状のまま放流すると東川が氾濫する危険性がある。

そのため、県と市で今後の対応について協議を進めているが、東川の河川断面を拡大するには、計画の策定や国の事業採択及び用地買収など多くの課題があり、その整備には時間を要するが、改善に向けて県と協議を行っていきたいと考えている。

また、久保田雨水幹線が整備できるまでの暫定的な対応については、さらに方策を検討していく。

Q⑥b 14年たつてこの状態ということは、もうあきらめていることか。

A⑥b あきらめていない。河川の改修は、法律の変更もあり整備には基本方針・計画を立ててからと昔に比べてハードルが高くなったのも事実、時間がかかるのも事実であるので暫定的な対応策を考えていきたい。

尻無川は16年災害対策以前から、河川整備計画として護岸整備と橋の架け替えを実施したものである。

金栄橋については、川幅が狭い上に橋脚が2本あることは承知しているので改修したいが、河川の改修をしてからでないと橋の架け替えは難しい。県には改修計画を一緒に作ってほしいという申し入れをしている。県議等にも皆さんからもお願いしていただき、県を動かしていきたいと考えている。久保田雨水幹線も同様に河川改修が必須であるので、一刻も早く県に計画していただくのが市の命題と考えているのでご理解を賜りたい。

Q⑥校区内水害対策

尻無川の土砂撤去

尻無川は雑草雑木が生い茂った上に土砂が堆積しており、川幅1/3程度しか流れていない箇所があった。先日、150m程度の区間の土砂が撤去され一部改善されたが、今後の対応を聞きたい。

A⑥ 尻無川の管理者である愛媛県東予地方局に確認をした。今秋以降に前回実施箇所の下流を実施する予定にしているとの回答を得た。市としても今後も県と連携し、少しでも早く土砂撤去が進むよう要望していく。

3. 校区課題

課題名（提言書1「命だけは守る！」）

別紙提言書のとおり（読み上げて趣旨説明を行った）

市長コメント

本日の会議のまとめは庄内自治会長さんがまとめていただいたので、これに尽きるのではないかと思う。色々要望もあったが、市としてできるものは早急に取り組んで行きたい。南海トラフ地震では一人の犠牲者も出さないように対策を講じていきたいので、ご協力をお願いします。

課題名（提言書2「蛍の住むまち・新居浜市を目指して！」）

別紙提言書のとおり（読み上げて趣旨説明を行った）

市長コメント

最後は柔らかい議題で、できたらいいなと思う。中萩、大生院は学校で繁殖をし、蛍を飛ばしているが、自治会がかなり苦勞していると聞いている。皆さんで知恵を出し合ってできたらいいなと思っているので、提案があればお願いしたい。